



縄文時代末期	BC 500頃	唐津市菜畑で大陸から伝えられた稲作を日本で始めて行う。(菜畑遺跡)
鎌倉・室町時代	AD 1300 ～1400	中国や朝鮮半島との貿易が行われており、当時の大陸との交渉の拠点となる。 (徳蔵谷遺跡から遺構と高麗青磁、青磁、白磁、通貨が発見された)
江戸時代	1608 (慶長13年)	唐津藩初代藩主寺沢志摩守廣高(てらさわしまのかみひろたか)が7年の歳月を費やして唐津城を築城する。また、城を守るため松浦川の流れを現在の形に変え、河口部が唐津港のはじまりとなる。
明治・大正	1889 (明治22年)	唐津港が石炭の特別輸出港に指定され、唐津長崎税関出張所設置。
	1896 (明治29年)	輸出制限が撤廃され、石炭港から開港貿易港に指定。
	1897 (明治29年)	唐津鉄道の敷設に伴い、松浦川の河口部を利用していた石炭の積出しが実質的に西港区に移る。
	1899 (明治30年)	関税法による開港に指定。
	1904 (明治37年)	唐津～釜山間に貨物船定期航路が開設される。九州初の朝鮮定期航路。 (3年後に解消される)
	1914 (大正3年)	パナマ運河の開通により、世界一周航路が開設。関門海峡通峡の際の給炭給水の場となる。
	1918 (大正7年)	西唐津に三菱商事や三井物産唐津市店等多くの石炭商社が設立。
昭和	1919 (大正8年)	日本で最初の世界一周航路の寄港を契機に貨物量が急速に伸びて、全国屈指の外国貿易港となり、以後数年間唐津港黄金時代を築く。
	1932 (昭和7年)	北九州商船(現在の九州郵船)の長崎～釜山、九州～朝鮮～大連航路が月6回寄港することになったが、集荷がともなわず2年後に廃航。
	1936 (昭和11年)	唐津港が第二種重要港湾に指定。
	1951 (昭和26年)	唐津港が重要港湾及び出入国管理港に指定。 (重要港湾：国の利害に重大な関係を有する港湾 出入国港：乗員乗客の出入国ができる港)
	1953 (昭和28年)	商工ふ頭(現在の水産ふ頭)及び大島石炭ふ頭が完成。 佐賀県による港湾管理者の設立。
	1959 (昭和34年)	石炭ふ頭(東港区)築造に着手。
	1960 (昭和35年)	検疫法により検疫港に指定。
	1965 (昭和40年)	石炭需要の低落に伴い、石炭ふ頭を商工ふ頭に機能換えすべく、公共ふ頭の整備に着手。
平成	1967 (昭和42年)	火力発電所発電開始(昭和37年立地)。妙見工業用地及び公共ふ頭を補助事業として着手。
	1981 (昭和56年)	妙見工業団地完成。
	1989 (平成元年)	妙見ふ頭が供用開始。
	1997 (平成9年)	植物防疫指定港に指定。
	1998 (平成10年)	港内最大の-12m公共岸壁が供用開始される。定期コンテナ沖縄航路が開設。
	2002 (平成14年)	外貿コンテナ航路(唐津～釜山)が開港。(平成16年に運行休止) 動物検疫指定港に指定。
	2004 (平成16年)	改正SOLAS条約施行。
	2005 (平成17年)	東港地区でフェリーふ頭の整備が着工。 港湾計画改定により、岸壁(-9m)の耐震改良が位置付け。
	2007 (平成19年)	唐津～壱岐間にフェリー就航。 東港地区岸壁(-9m)の耐震改良の着手。
2011 (平成23年)	「日本海側拠点港」の外航クルーズ(背後観光地クルーズ)機能の「拠点化形成促進港」に選定。	
2016 (平成28年)	東港地区岸壁(-9m)が、耐震強化岸壁として暫定での供用開始。 (現在航路、泊地増深中)	